

平成29年度大分県の学力定着状況調査ならびに

平成29年度全国学力学習状況調査の結果と分析について

平成29年10月13日
由布市教育委員会

本年度、4月26日に実施された「平成29年度大分県の学力定着状況調査」ならびに、4月18日に実施された「平成29年度全国学力学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「平成29年度大分県の学力定着状況調査」〈図1参照〉

小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、理科活用を除く全ての教科で「目標値^{※注1}」を超えました。

これは昨年度と同様です。

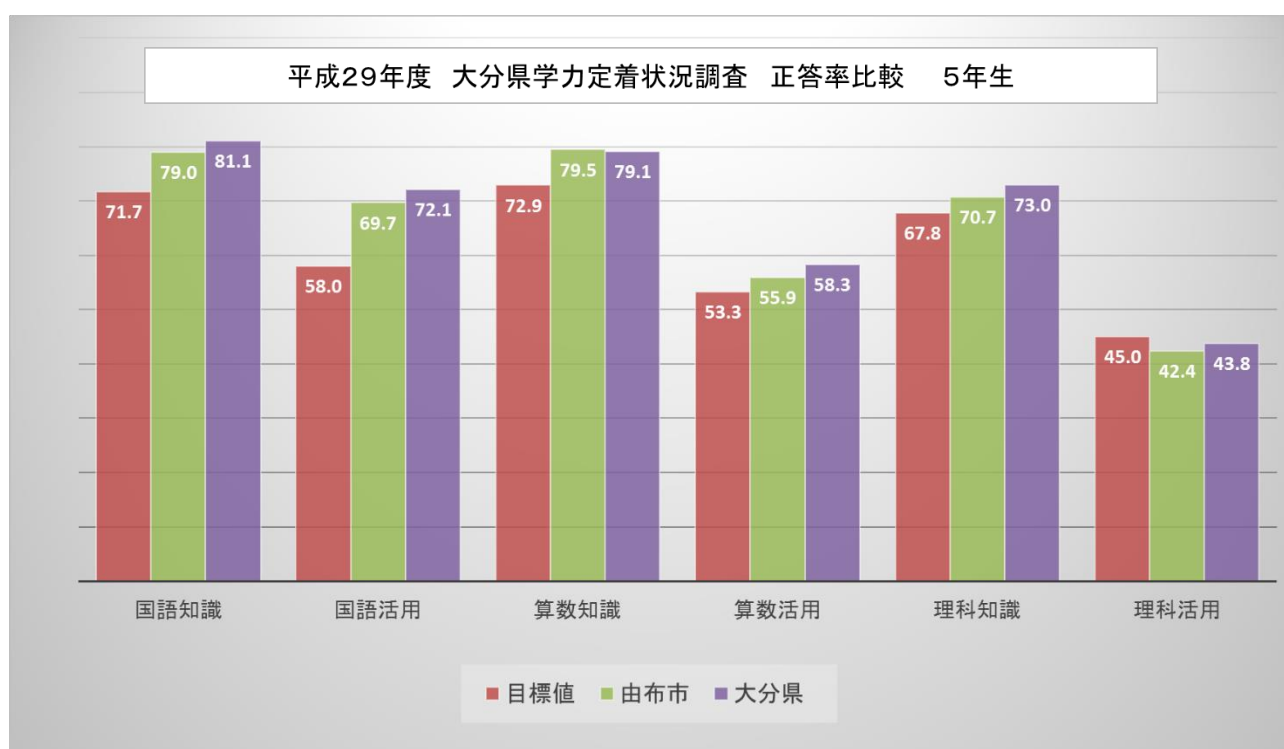
○県の平均値にはもう少しというところなので、引き続き取組を充実させることが必要になります。算数の知識については県の数値も超えています。

○状況的には、ほぼ昨年、一昨年度と同様の状況です。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。

多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

〈図1〉 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「平成29年度全国学力学習状況調査」＜図2参照＞

小学校では、第6学年で、国語・算数の調査が実施されました。

○6年生では、すべての項目で全国値を超えました。また、県ともほぼ同様の値でした。

○小学校の成績はここ2～3年同様の傾向を示しており、年度によって生まれる差がなくなってきました。

＜図2＞ 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上

由布市においては、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに学習の技能をつけていくことを目指してやってきました。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることについては課題があり、学力調査の当該学年だけに対策をとるのでなく、組織的・計画的な取組を進めているところです。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

問題を詳しく見ると、県における分析と同様、由布市においても前年度と同じような問題が解けていないという結果が出ています。

このことは、前述の低学年からつけていく力に加え、学力調査の結果をふまえて授業改善をしていくことの大切さを物語っています。学力向上支援教員や習熟度別授業推進教員、また、指導法工夫改善教員および指導教諭といったが学力向上に特化した教員を核として、今後も組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

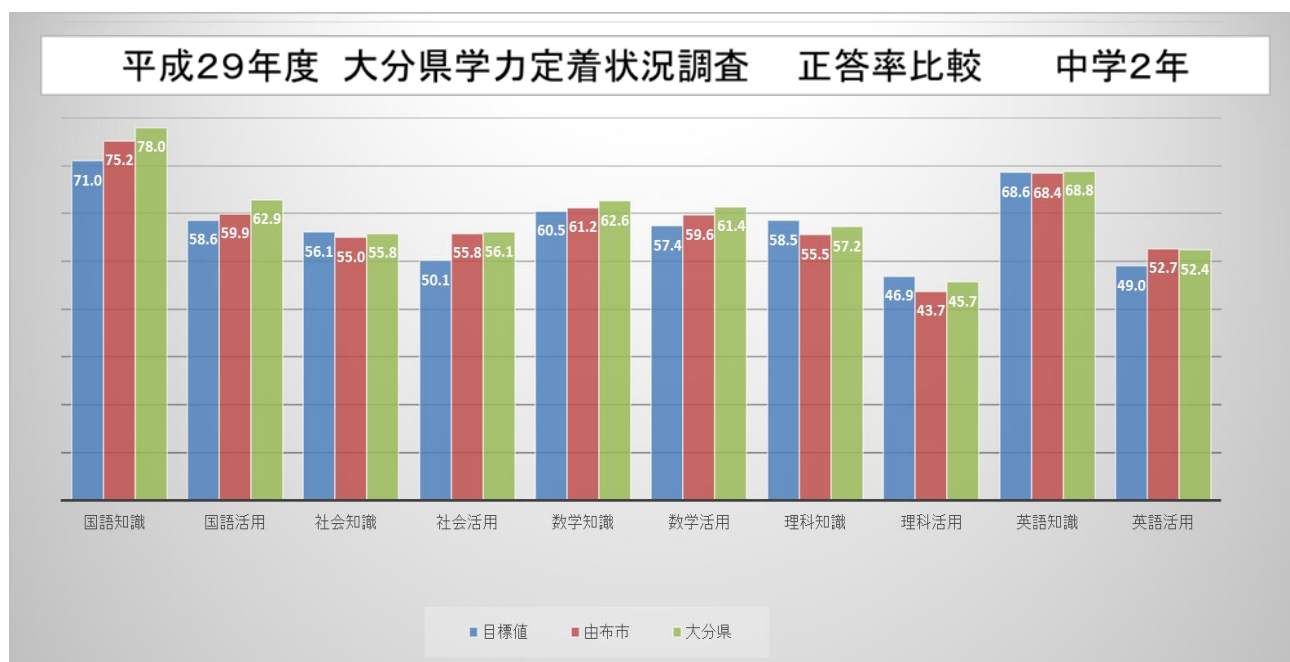
「平成29年度大分県の学力定着状況調査」〈図3参照〉

中学校では、第2学年で国語・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○2年生では、社会の知識、理科の知識と活用、英語の知識を除き「目標値^{※注1}」を超えました。

○ほぼ県と同様の結果が出ていますが、国語や数学、理科において、さらに取組を進める必要があります。

〈図3〉 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県

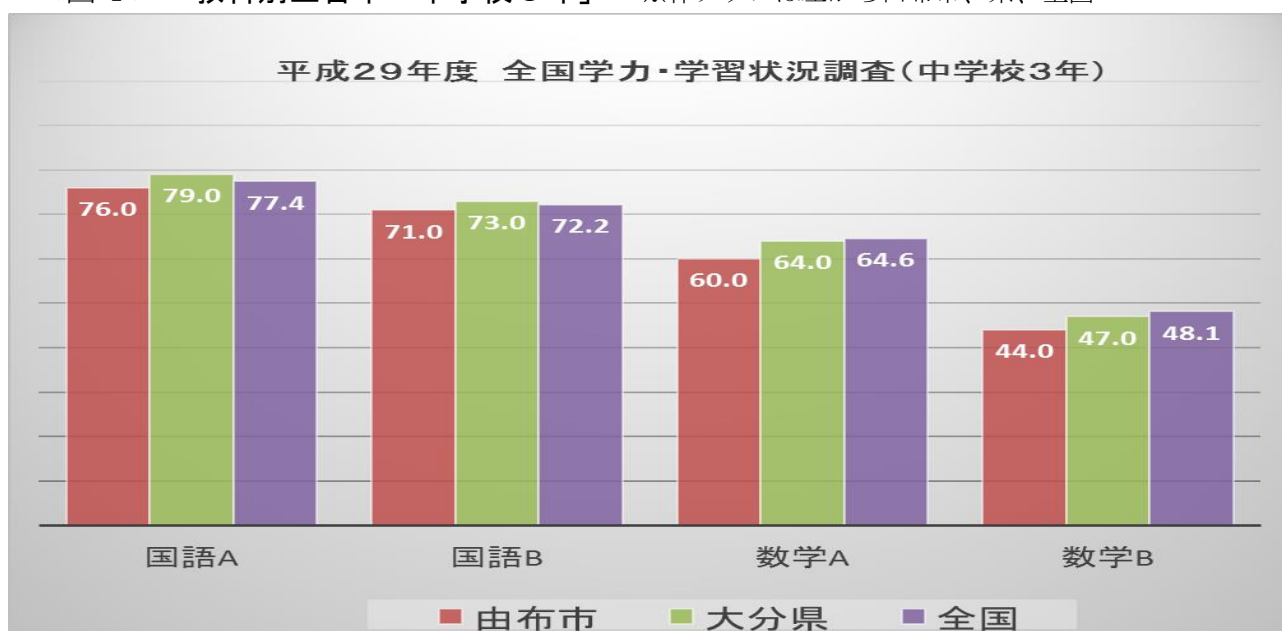


「平成29年度全国学力学習状況調査」〈図4参照〉

第3学年で、国語・数学・理科の調査が実施されました。

○すべての科目において、県や全国の値を下回りました。

〈図4〉 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



今回の結果では、特に数学において県や国の結果と4～5ポイント異なっていることもあり、市全体で大変重く受け止めています。

中学校では、学力向上支援教員を増員しています。今後もそういった教員を増やし、組織的に取り組めるようにしていきます。

(3) 今後の課題

* 県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ <u>学校全体で統一した取組</u>○ <u>授業改善の充実</u>○ <u>家庭学習・補充学習の丁寧さ</u> |
|--|

* 上記の3点については、継続した取組が必要になります。成果が見えられたところもいくつかありますが、さらに具体的な取組を行っていくことを考えています。

特に、小学校・中学校の連携、および、学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組を検討中です。

2 意識調査結果の分析

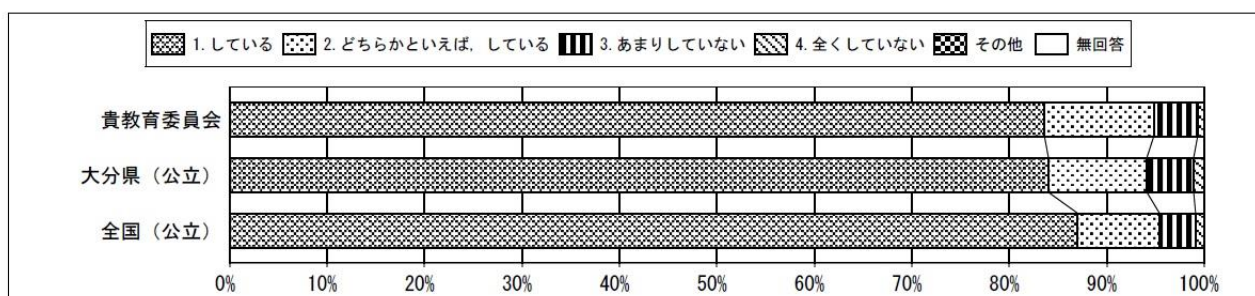
(1) 全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

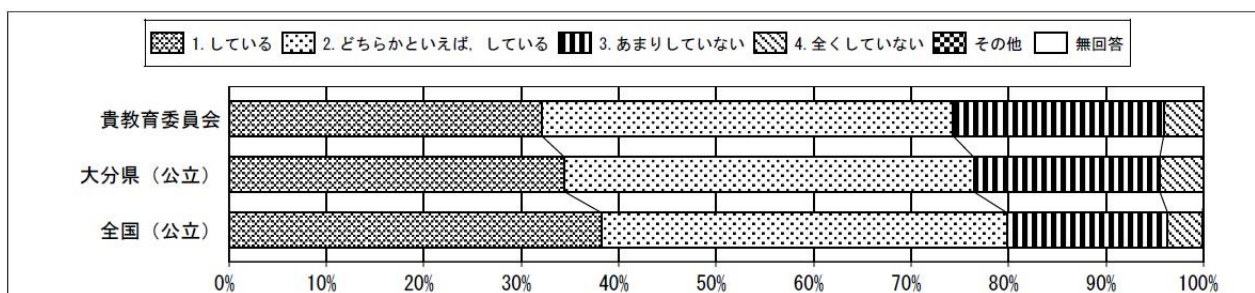
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

① 基本的な生活習慣について

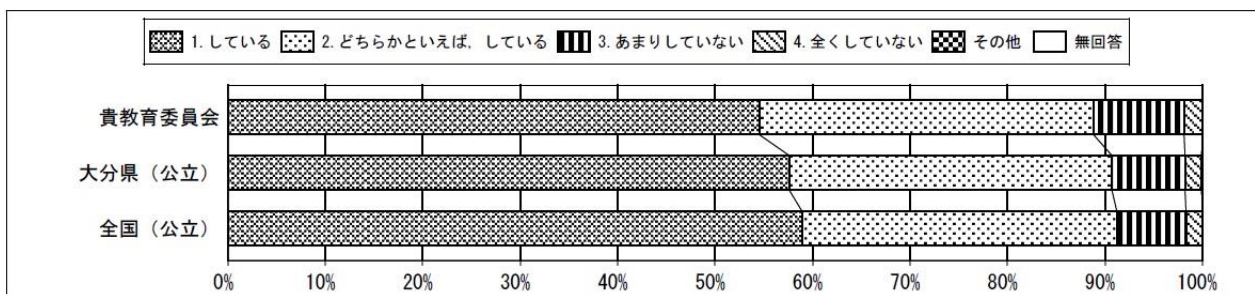
Q1 朝食を毎日食べていますか



Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか

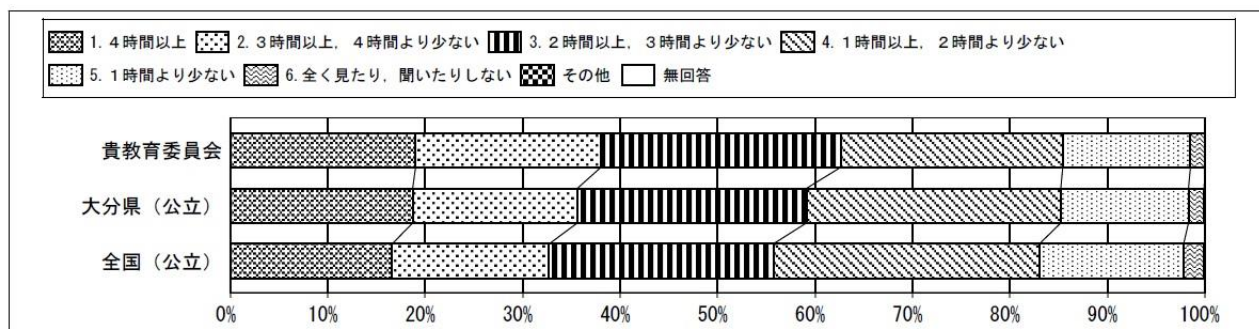


Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか

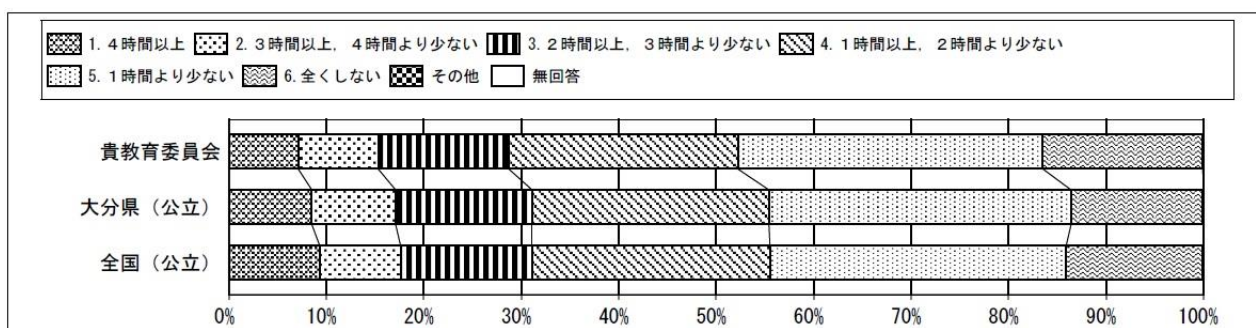


* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようですが、すべての項目において、県や全国より割合が下がっています。このことは、学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

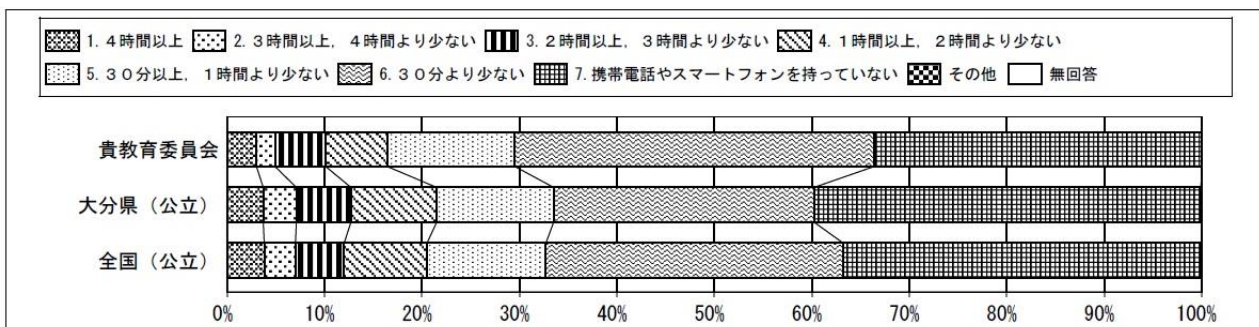
Q4 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビやDVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除く）



Q5 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピューター、携帯・スマートフォンを含む）



Q6 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、携帯やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをしますか（ゲーム時間を除く）



* これも県や全国とあまり差がないようです。

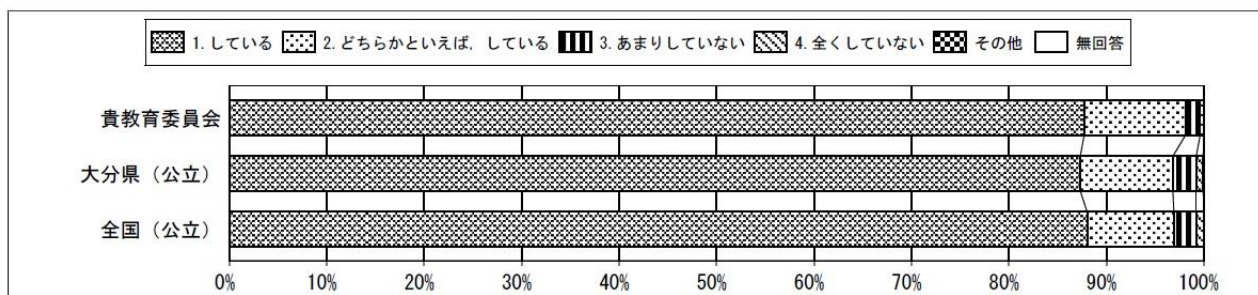
TVを見る時間については、県や全国よりも多い傾向にあります。

* ゲームをする子どもの割合は、前年度に比べて減ってきました。

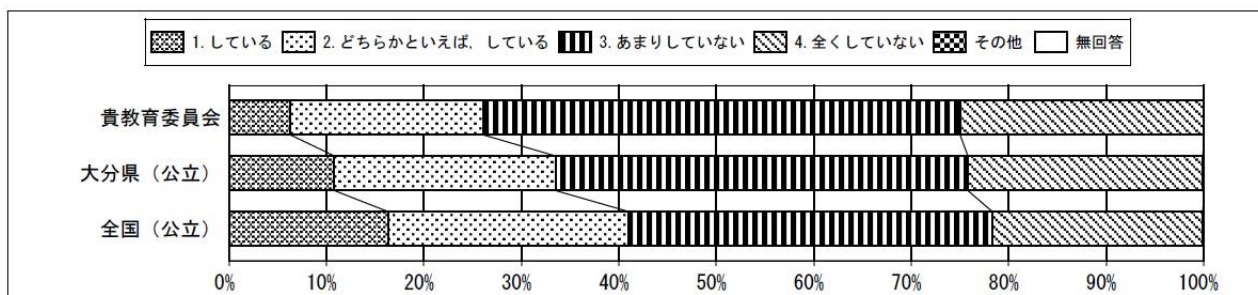
* インターネットを利用している子どもの割合は県や全国より低いですが、2時間以上している子が10%いるので、対応が必要になると考える。

② 学習習慣について

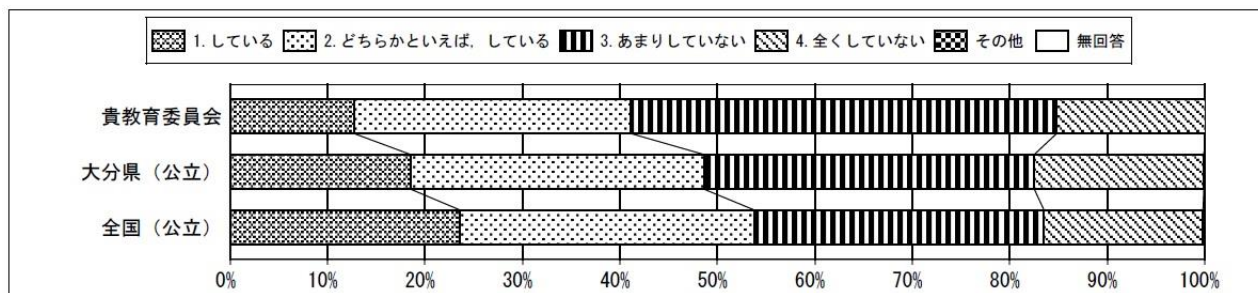
Q7 家で学校の宿題をしていますか。



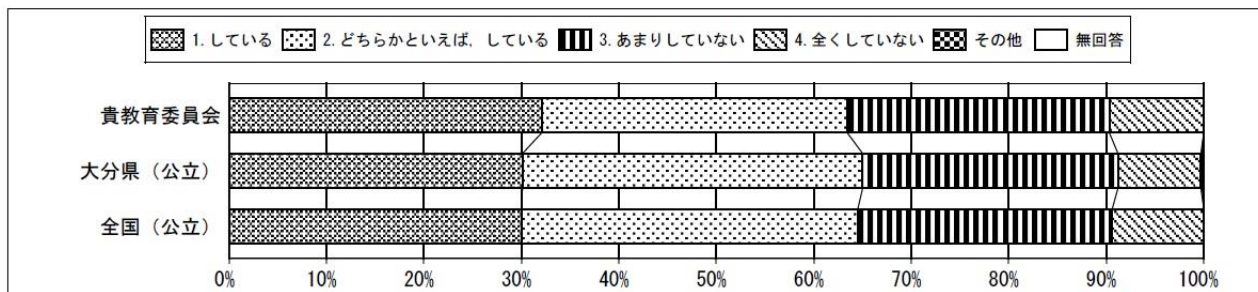
Q8 家で学校の予習をしていますか。



Q9 家で学校の復習をしていますか



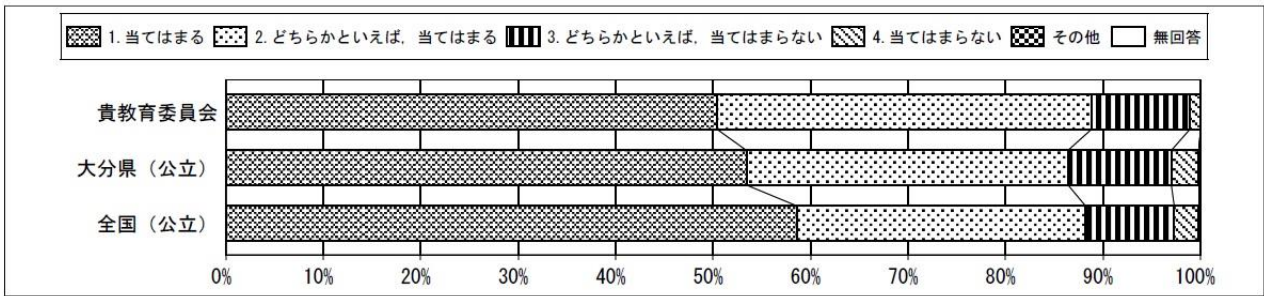
Q10 家で計画を立てて勉強をしていますか



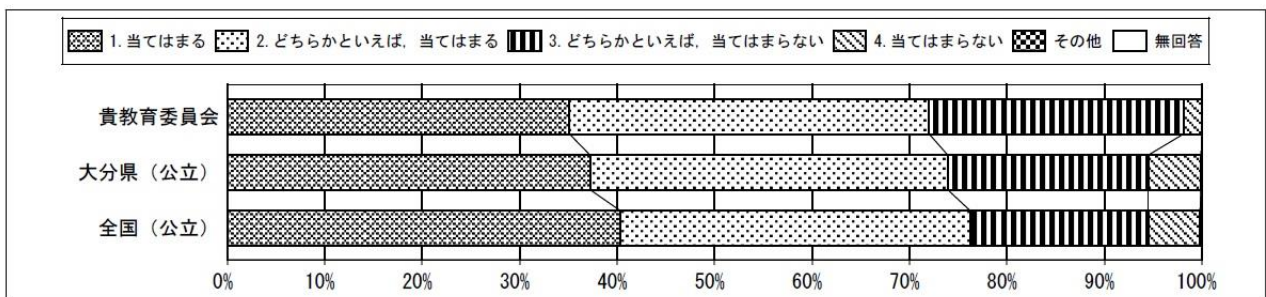
*計画を立てて学習したり、宿題をやっている割合はあまり変わりませんが、授業の予習・復習については県や全国より低いことがわかります。今後の改善点にあげていこうと思います。

③ 授業改善について

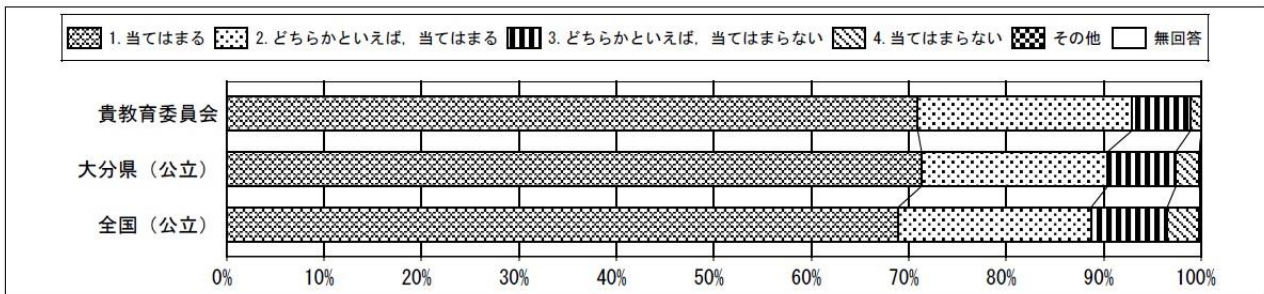
Q 1 1 5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



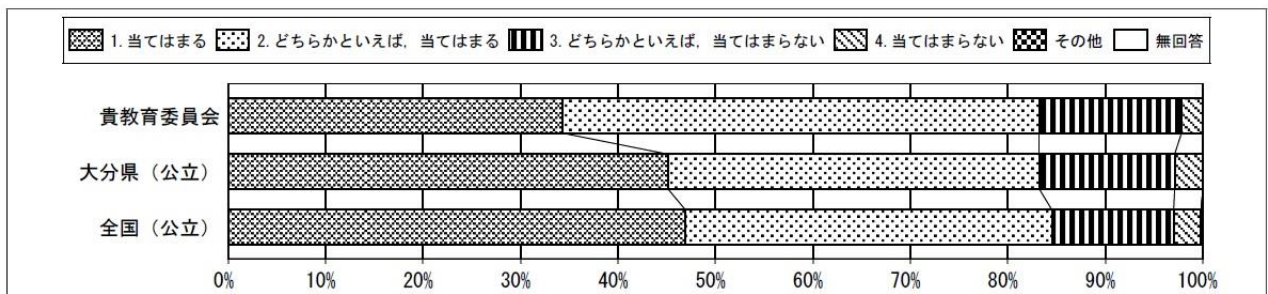
Q 1 2 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



Q 1 3 5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか



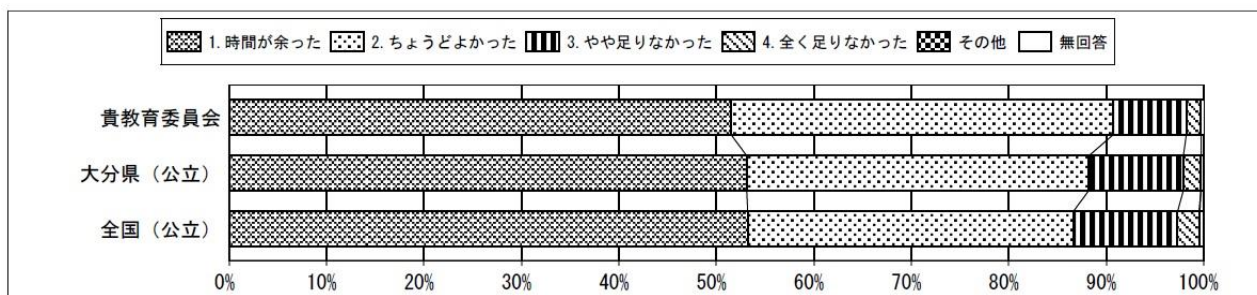
Q 1 4 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



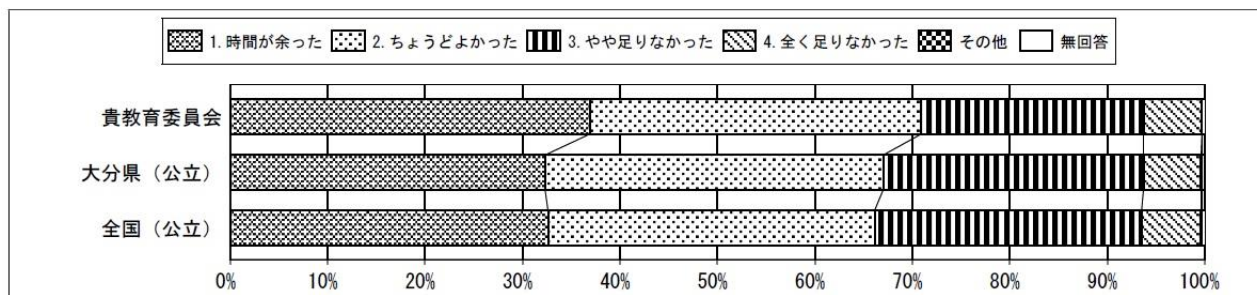
* 授業改善に関しては、特に振り返りを充実させる取組をおこなってきたにもかかわらず、県や全国に比べ10ポイントほど低い結果となりました。今後の授業改善の重点にしようと思います。話し合いの活動も、肯定的な割合はほぼ県や全国と同じですが、当てはまるとした割合が少ないことが問題です。

③ 解答時間について

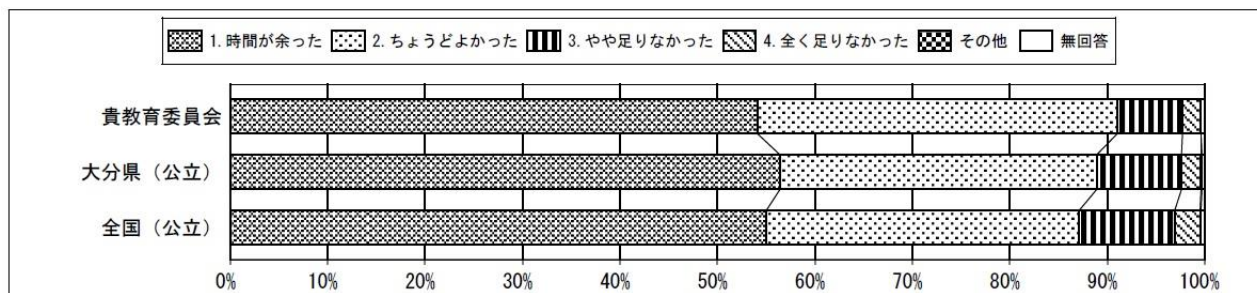
Q 1 5 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



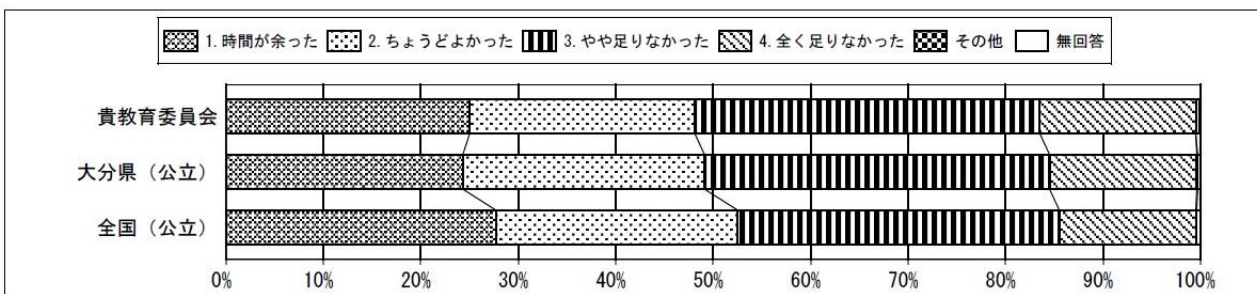
Q 1 6 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



Q 1 7 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）



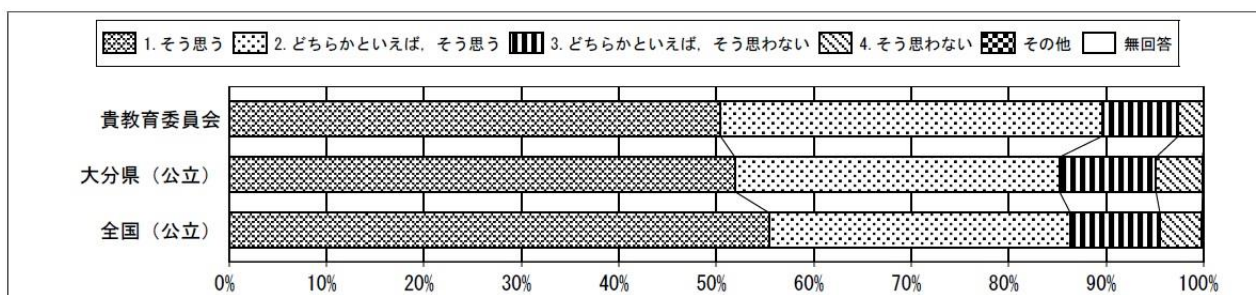
Q 1 8 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）



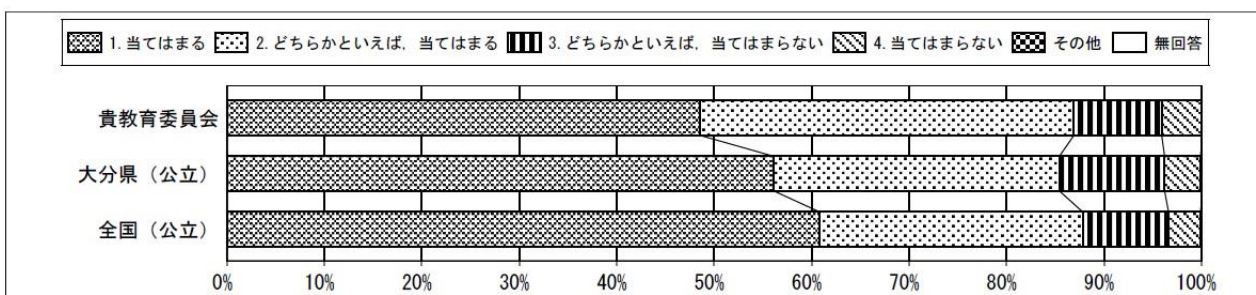
* 調査問題の解答時間については、間に合った割合が前年度より増えました。
 今後も低学年から計画的に、読むスピードや計算のスピードをつける取組を進めます。

④ その他の項目について

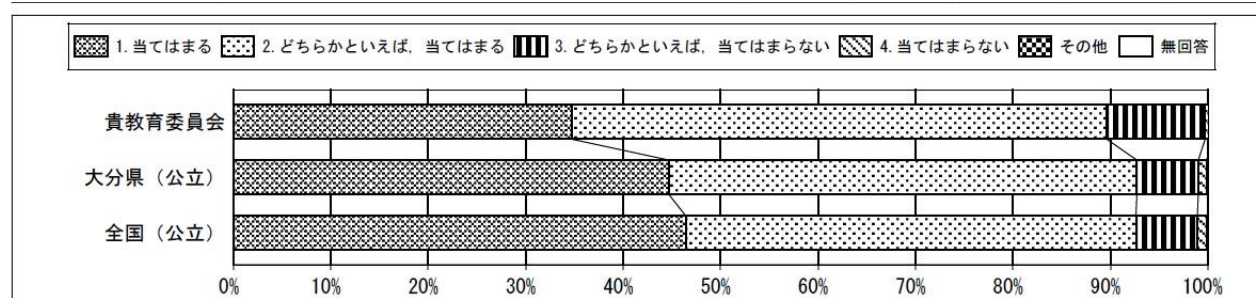
Q19 学校に行くのは楽しいと思いますか。



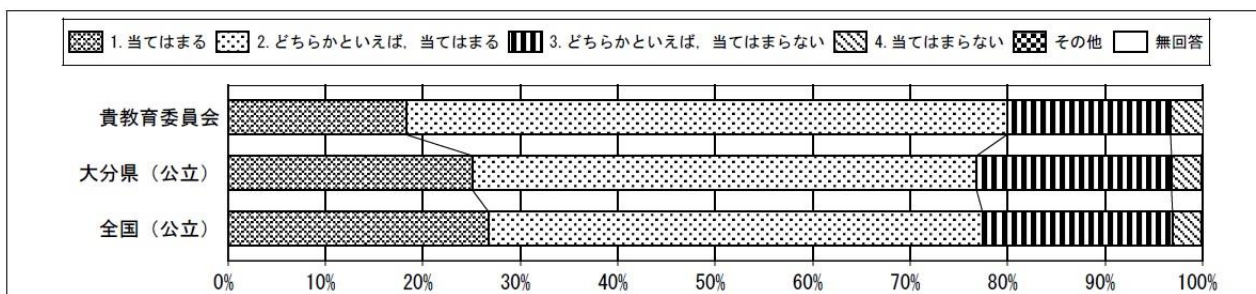
Q20 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



Q21 学校のきまりを守っていますか



Q22 難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦していますか



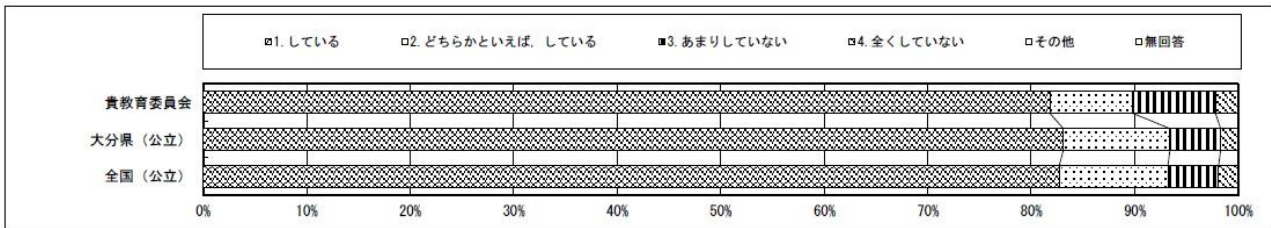
*難しいことに挑戦すること。みんなで何かをやり遂げること。学校を楽しんでいると感じること。このことは全て相関関係があると考えます。これらの項目は、昨年度同様低くなっていました。

*今後とも、学校生活のみならず、子どもたちを取り巻く環境全ての改善に取り組んでいくことが大切と考えます。

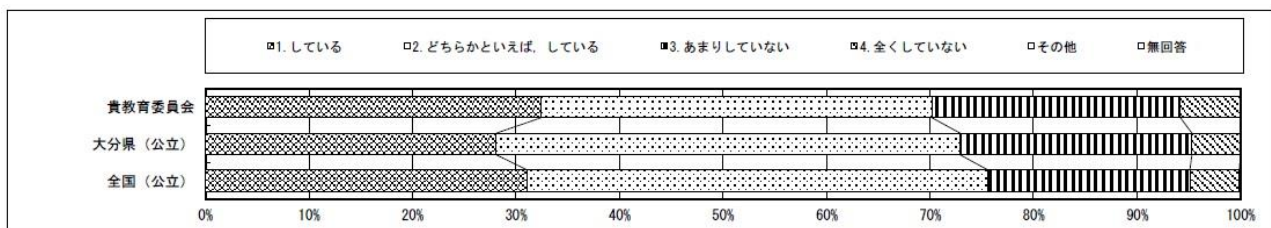
「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

① 基本的な生活習慣について

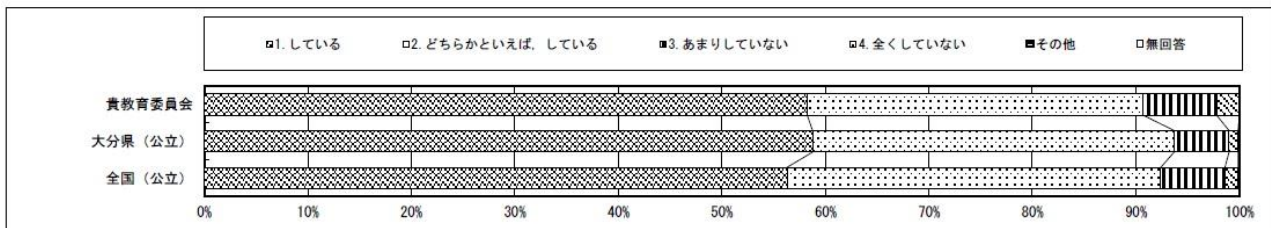
Q 1 朝食を毎日食べていますか



Q 2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



Q 3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか

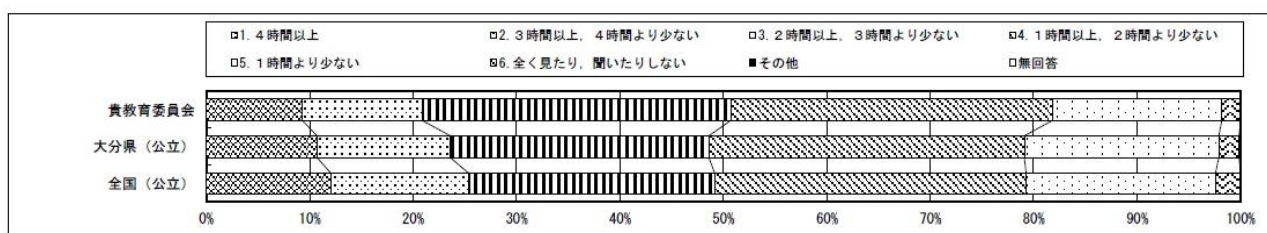


* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようです。

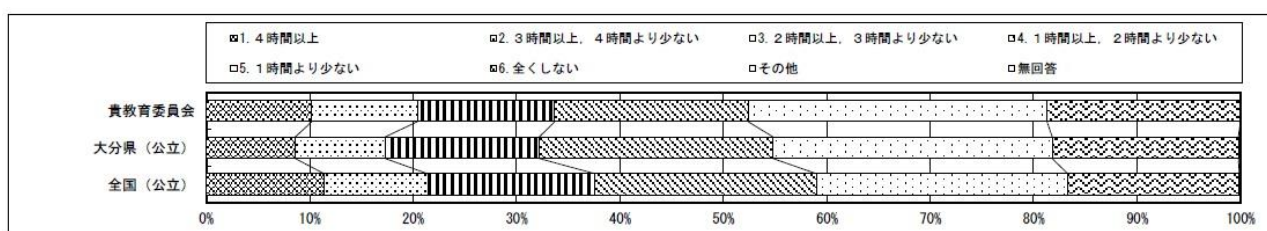
これは、昨年度の結果もほぼ同じでした。

* どちらかという、県や全国に比べ基本的な生活習慣はついているようです。

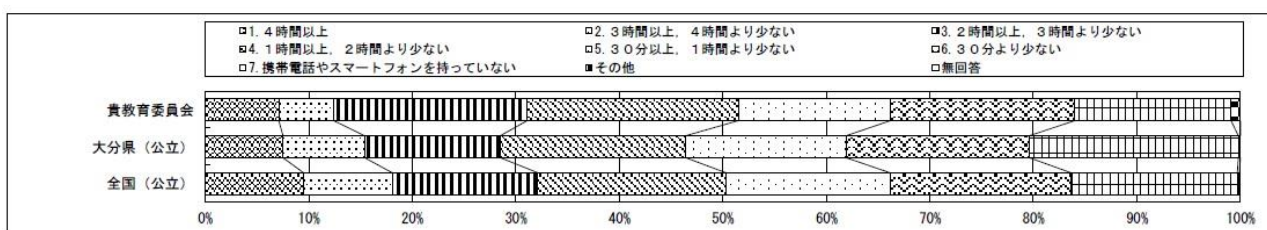
Q 4 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビやDVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間は除く）



Q 5 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピューター、携帯・スマートフォンを含む）



Q 6 普段（月～金）、1日あたりどのくらいの時間、携帯やスマートフォンで、通話、メール、インターネットをしますか（ゲーム時間を除く）



* これも県や全国とあまり差がないようです。

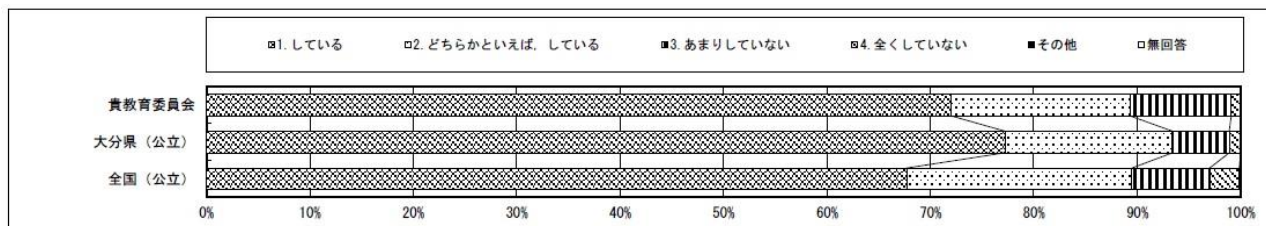
TVを見る時間についての割合が低い反面、テレビゲームをする割合が若干多いのが特徴です。

* 気になるのが、ゲームや携帯等に、2時間以上携わっている子どもが結構いるということです。（30%ぐらい）インターネットの割合は昨年より減少しましたが、まだ改善する必要があるようです。

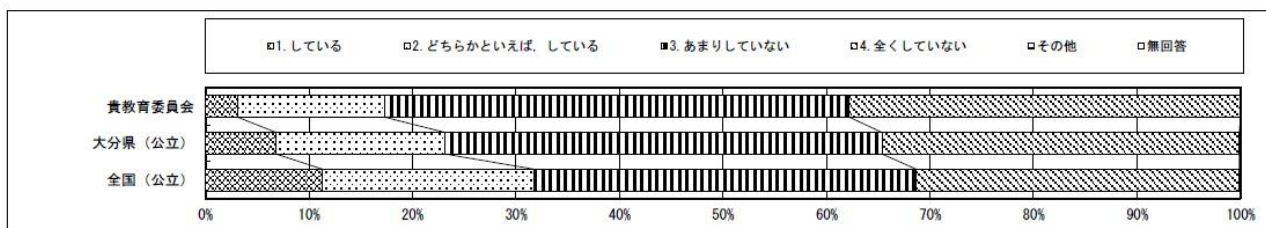
* また、4時間以上関わっている子は、昨年度同様5%ほどいました。

② 学習習慣について

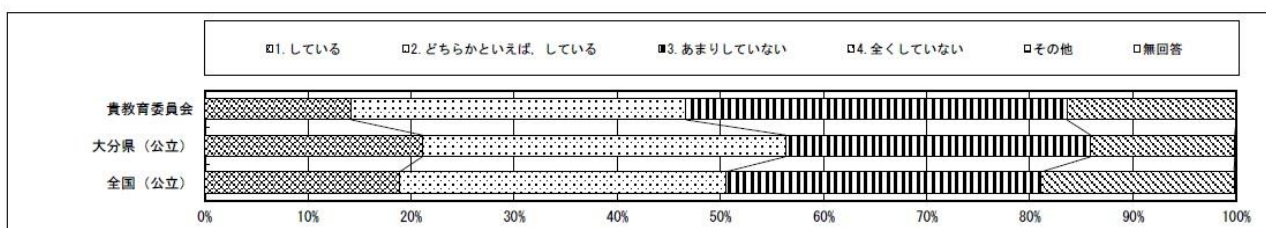
Q 7 家で学校の宿題をしていますか。



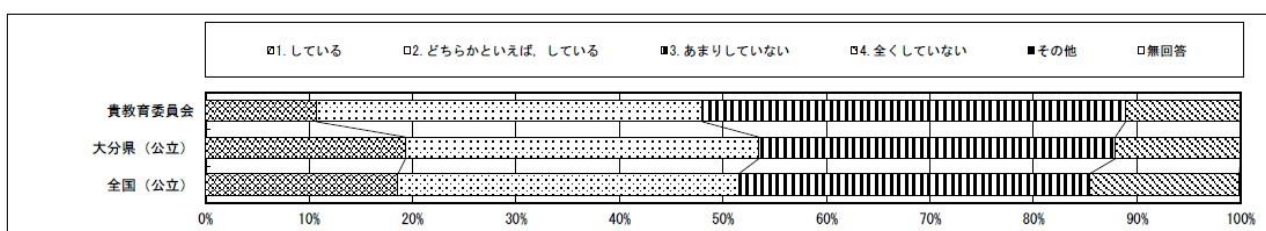
Q 8 家で学校の予習をしていますか



Q 9 家で学校の復習をしていますか



Q 10 家で計画を立てて勉強をしていますか



*昨年度調査では、県や全国に比べて家庭学習をやっている割合が高かったのですが、今年度はほぼ全国並みの結果になりました。

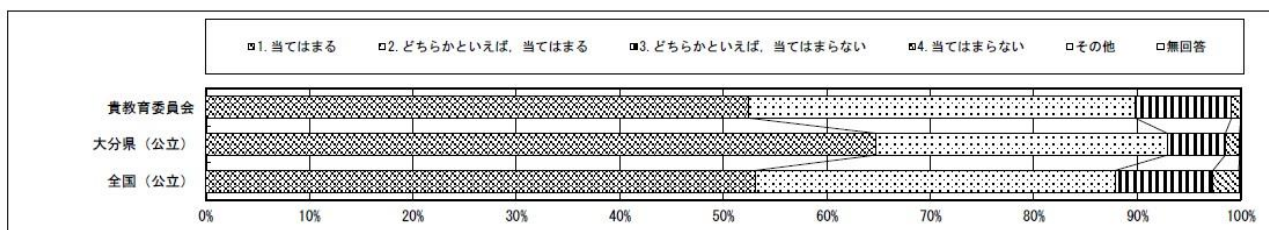
*授業の予習については、県よりもかなり低い結果となりました。教科によりますが、授業と連動した予習の必要がありそうです。

*授業の復習については県や全国とあまり変わらない結果になりました。
このことは、昨年度までの課題が少しずつ改善されたといえます。復習を行うことで、学習の定着が図れますので、今後も授業の復習をしていくことに力を入れていきます。

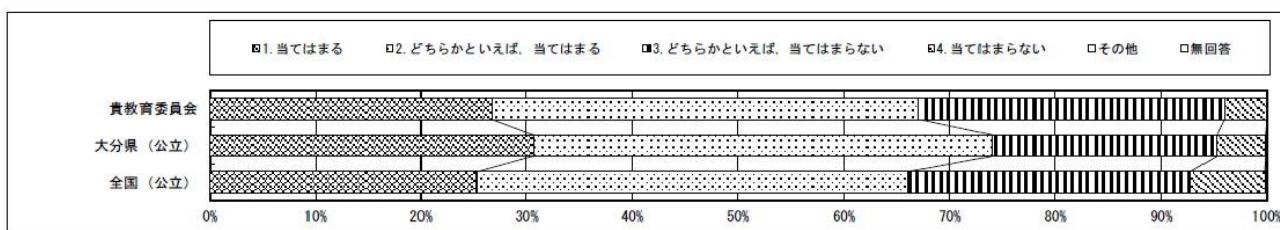
*家での過ごししかた（家庭学習も含め）を子どもが自立してどのように行っていく力をつけていくのかは、学校と家庭が協力して行う必要があります。

③ 授業改善について

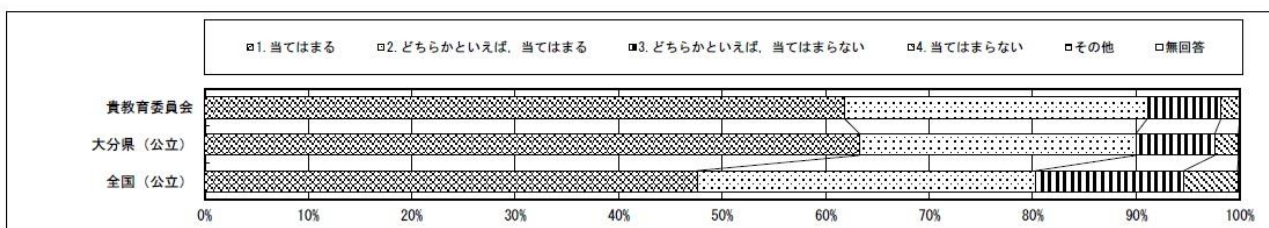
Q 1 1 2年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。



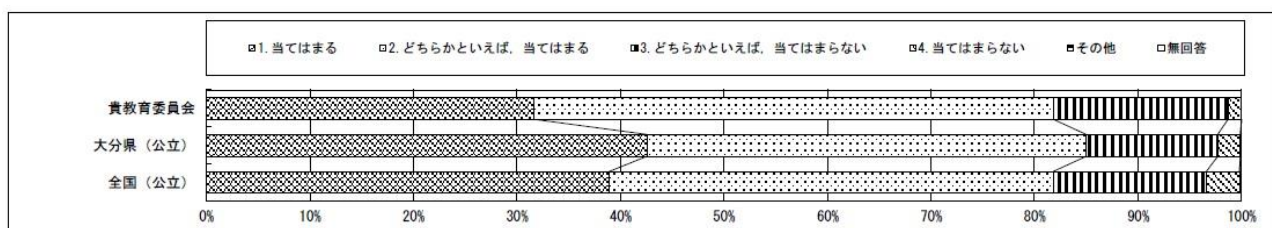
Q 1 2 2年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



Q 1 3 2年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか



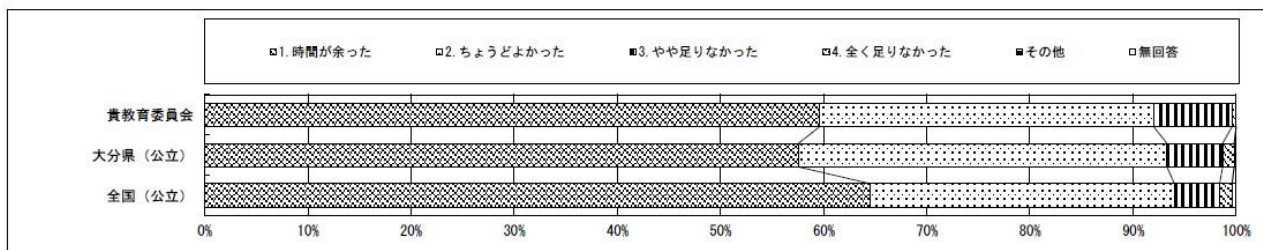
Q 1 4 2年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



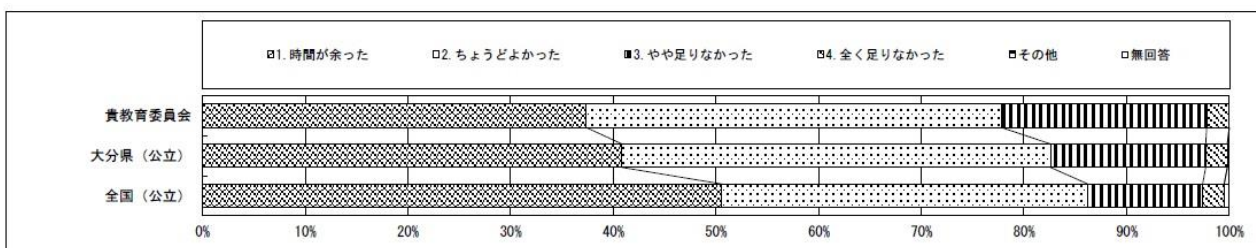
* 目標の提示や、話し合い活動については、大分県の結果に比べ、10ポイント近く低くなっています。授業改善の重点として力を入れていきます。

③ 解答時間について

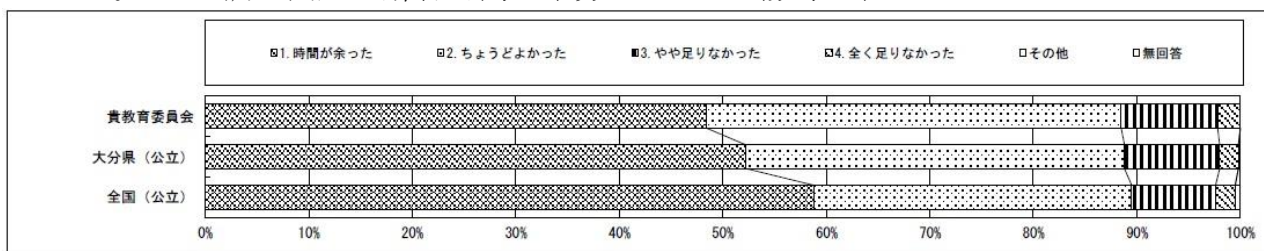
Q 1 5 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



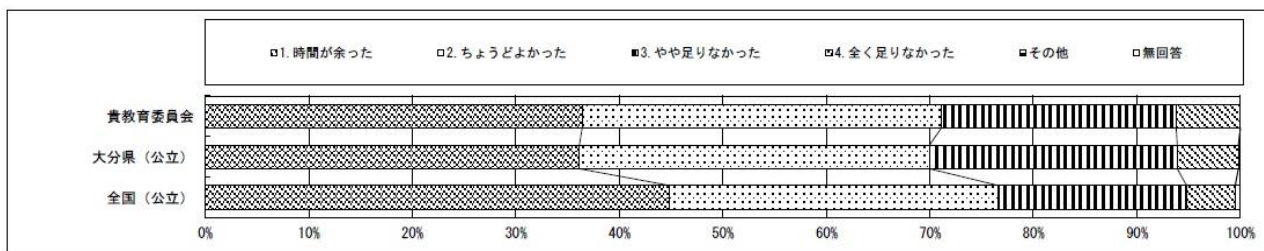
Q 1 6 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



Q 1 7 調査問題の解答時間は十分でしたか（数学A）



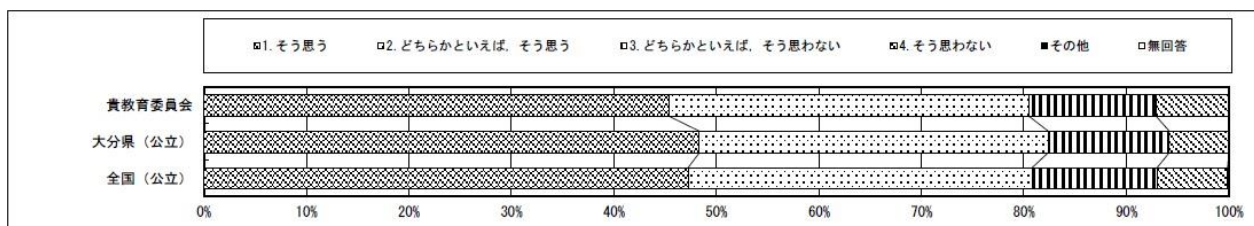
Q 1 8 調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）



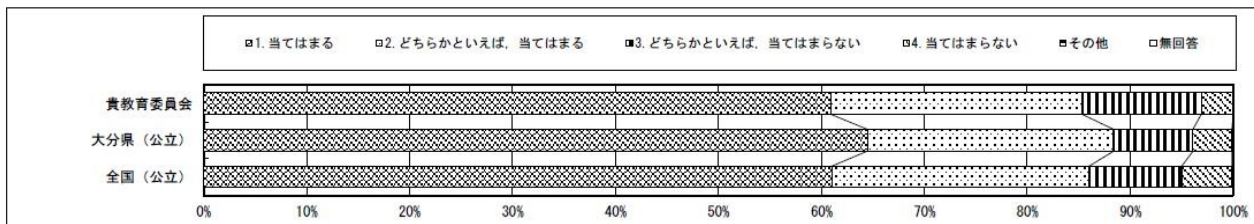
* 解答時間も余裕がなかったようです。調査結果と連動しています。

④ その他の項目について

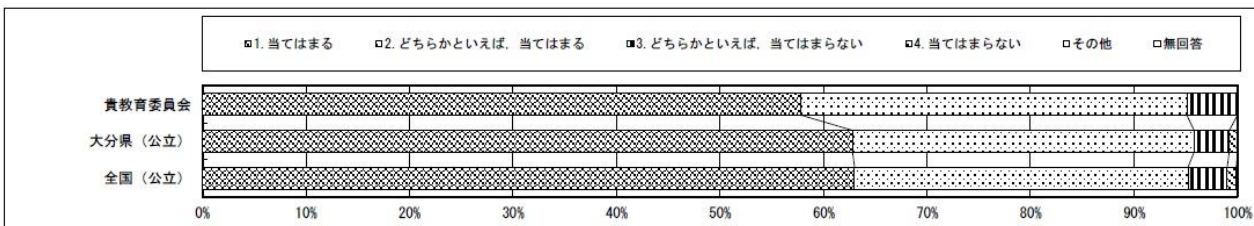
Q19 学校に行くのは楽しいと思いますか。



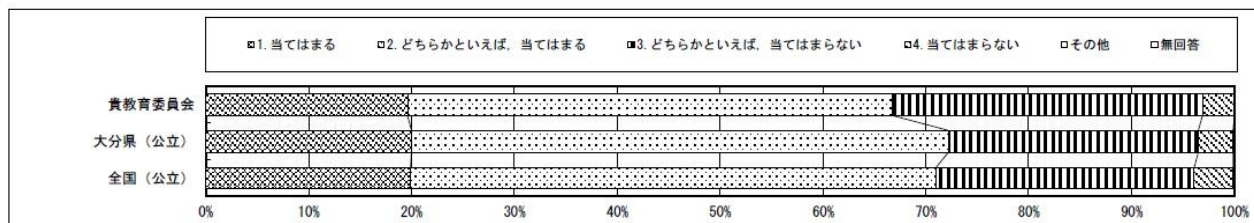
Q20 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



Q21 学校の規則を守っていますか



Q22 難しいことでも、失敗をおそれずに挑戦していますか



*この部分は、ほぼ県、全国と変わりませんでした。

*学校生活が学習だけでなく、生活面でも充実することが必要ですので、今後も由布市の取組の一つに加えていきます。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、家庭との連携を図ること。

学校を中心とした取組は、何年間かはあまり変えるつもりはありません。それというのも、市の立てた方針がまだ十分に位置付いているとは言えないからです。ただ、少しずつ成果はみられてきました。今後も学期ごとの重点化を図りながら、取組の充実に向けて精一杯努力を続けます。

しかしながら、昨年同様家庭との連携も一層密にしなければならない状況が出てきました。一つは、TV等の視聴時間、ゲームの時間、インターネットやメール（ライン）の時間です。これについては、一部の子どもたちが、かなりの時間を費やしており、学習への意欲はもとより、生活の乱れにつながっている実態があります。

(2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていかうと思います。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。これは、学校が組織的、継続的にいろんな取組を行っているのではなく、学年によって取組が異なっている可能性を示しています。

(3) 学校生活を充実させること。

小学校では改善、中学校では逆の結果が出ていました。学校生活、学習面のみならず生活面も充実させる必要があります。

今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた子ども作りにより一層取り組みます。

- * 今回の全国学力学習状況調査における中学校の結果分析を受けて、中学校では3校が共通して取り組む内容を現在検討中です。加えて、小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組むことになりました。

内容の詳細はこれから決まっていますが、その骨子としては、
～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、進められることは今年度から行っていく予定です。そして、学年間や、学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。